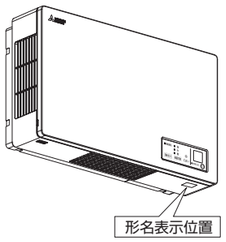
2207876H67002



MITSUBISHI ELECTRIC

「ヘルスエアー機能」搭載 循環ファン
〈大風量タイプ〉
形 名

JC-30KR

据付説明書

販売店・工事店様用

■この製品は、居間・事務所・店舗等の建物内の壁面に据付けてください。それ以外の場所には据付けないでください。（故障の原因となります）
■この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。据付けの前に、この説明書を必ずお読みください。
■据付けはお買上げの販売店・工事店様が実施してください。
電気工事は電気工事士の方が実施してください。間違った工事は、事故の原因になります。

本冊子は据付け後、必ずお客様へお渡しください。

1. 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

■“図記号”の意味は次のとおりです。

禁止	水ぬれ禁止	分解禁止	浴室での使用禁止	指示に従う

⚠警告

禁止	**直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない** 火災・故障の原因。
	可燃性ガスを含むスプレー等を製品にかけない 爆発・引火の原因。
水ぬれ禁止	**製品に直接水やお湯・かび取り剤などをかけない** ショート・感電の原因。
分解禁止	**改造や工具を必要とする分解はしない** 火災・感電・けがの原因。
浴室での使用禁止	**浴室など湿気の多い場所には据付けない** 感電・故障の原因。

⚠警告

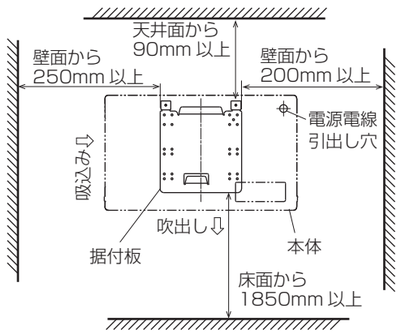
指示に従う	**交流100Vを使用する** 火災・感電の原因。
	電源電線の接続は確実に行う 不確実な接続は接続部が過熱して発火の原因。
	電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電の原因。
	電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。
	本体は絶縁材料の平らな壁面に据付ける。金属製の壁面、メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造物に据付けない 漏電、火災の原因。
	本体の背面と壁面の間に指が入らないように据付ける 感電の原因。
	漏電ブレーカーを確実に取付ける 故障や漏電の時に感電の原因。

⚠注意

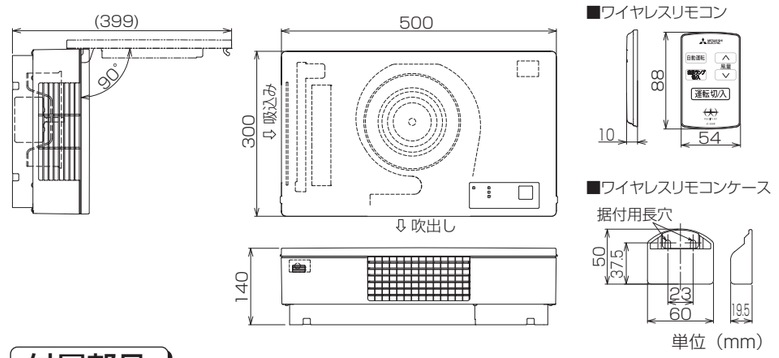
禁止	**壁据付け専用です。天井や傾斜面には据付けない** 落下によるけがの原因。
指示に従う	**部品の据付けは確実に行う** 落下によるけがの原因。
	据付けには付属のねじを使用する 落下によるけがの原因。
	本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う(本体質量は約6kg) 落下によるけがの原因。
	据付けの際は手袋を着用する けがの原因。

2. 据付け前のお願い

- 高所取付用です。製品下面が床面より 1800mm 以上となるメンテナンス可能な位置に据付けてください。
- 下記の場所には据付けないでください。
  - ・火災報知器から本体吹出口まで 1.5m 以内の場所
  - ・温泉や硫黄などの腐食性成分を含む場所（早期故障の原因となります）
  - ・高温（40℃以上）になる場所（早期故障の原因となります）
  - ・台所などの熱気や油煙の多い場所（早期故障の原因となります）
  - ・加湿器や湯気、水蒸気が発生する機器の近く
  - ・空調機や次亜塩素酸を揮発させる機器の近く
  - ・喫煙室など、常にタバコなどの煙が充満する場所（脱臭フィルターのメンテナンス時期が著しく短くなります。また、ニオイセンサーの誤動作の原因になります。）
  - ・直射日光などの強い光が当たる場所（ワイヤレスリモコン動作不良の原因となります）
  - ・本体とワイヤレスリモコンの操作位置との間に障害物がある場所
- 常ににおいが発生し続ける場所では、期待する脱臭効果が得られない場合があります。また、脱臭フィルターのメンテナンス時期が短くなります。
- 製品を複数台据付ける場合は、ワイヤレスリモコンで同時に動作する場合があります。
- 本体とブレーカーの間にスイッチなどを接続しないでください。
- 本体の据付位置は壁面から右図の距離を離してください。



3. 外形寸法図



付属部品

※ワイヤレスリモコン一式は製品内部に収納しておりますので、据付前に取り出してください。

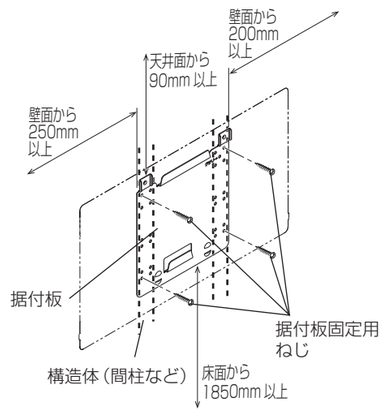
据付板固定用ねじ（4 × 50）……4 本	ワイヤレスリモコン……1 個	ワイヤレスリモコンケース……1 個	据付板……1 枚
本体据付用ねじ（4 × 12）……2 本	ワイヤレスリモコン用リチウム電池（CR2025）……1 個	ワイヤレスリモコンケース据付用木ねじ（4.5 × 20）……2 本	

4. 据付方法

1 据付板の固定

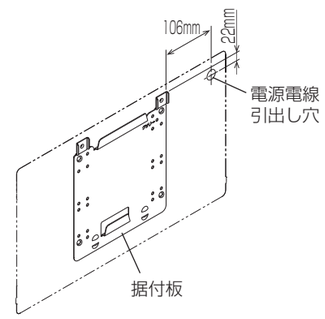
1. 据付板を固定する
右図を参照し、壁内の構造体（間柱など）や補強材のある位置に据付板を付属の据付板固定用ねじ 4 本（上部 2 本、その他の箇所 2 本）で固定する。

お願い
- 据付板は、できる限り四隅の均等な位置のねじ穴を選び据付板固定用ねじで固定してください。
- 据付場所に壁内の構造体や補強材がない場合は、市販のボードアンカー（金属製カサ式）など、壁の厚さに適合したものを使用してください。



2. 右図を参照し、φ 20 の電源電線引出し穴をあけて、電源電線を引き込む
（システム部材の電源コード (別売 P-01DC または、P-250DC) を使用する場合は必要ありません）

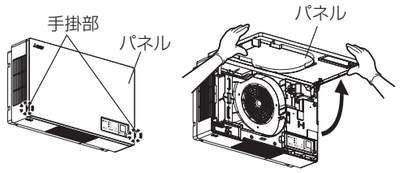
お願い
- この引出し穴は、電源電線を壁の内側から引き出すためのものです。引出し穴の切り口で電源電線を傷つけないようにしてください。
- 電源電線引出し穴と据付板との位置関係は正確に出してください。（据付板の位置がずれると電源電線引出し穴が本体からはみ出してしまいます）



2 本体の据付け

- システム部材の電源コード（別売P-01DCまたは、P-250DC）をご使用になる場合は、3-1【電源プラグ付きに変更する場合】を先に行ってください。

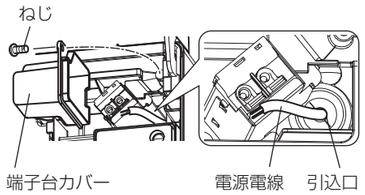
1. 本体のパネルを開ける
パネル両側の手掛部に指を掛けて手前に引いて持ち上げる。



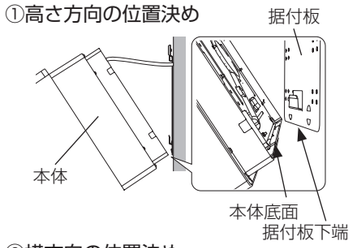
2. ねじ 1 本をはずして端子台カバーを開ける

3. 電源電線を本体背面の引込口から本体内部に引き込む

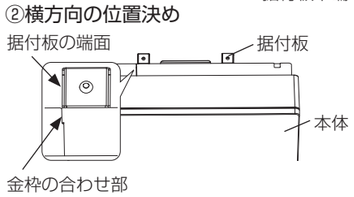
お願い
- 電源電線は、結線作業ができるように十分な長さを用意してください。



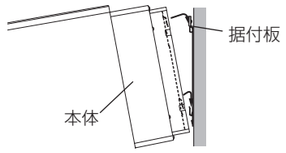
4. 壁に固定した据付板に本体を引っ掛ける
① 据付板下端と本体底面を合わせる。（高さ方向の位置決め）



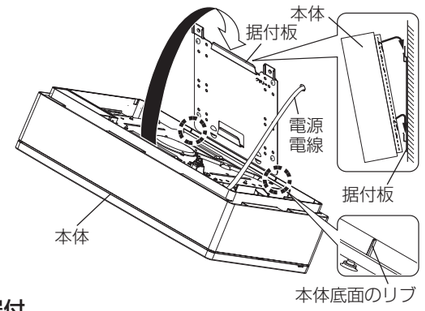
② 据付板の端面と本体の金枠の合わせ部を揃える。（横方向の位置決め）



③ そのまま本体背面を壁面に当てた後に下ろして、据付板に引っ掛ける。

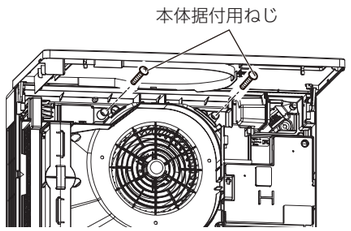


※下記の方法でも本体の据付けができます。
本体背面の底面リブ間に据付板を合わせます。そのまま本体を回転させ、壁面にあてた後に下ろすと、据付板に引っ掛かります。



5. 本体を本体据付用ねじ 2 本で据付板に固定する
締付トルク：80 ～ 120N·cm（8.2 ～ 12.3kgf·cm）
- 本体と壁面の間に指が入らないことを確認してください。

お願い
- 電源電線をかみ込まないように本体を据付けてください。

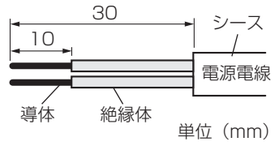


3 電気工事

⚠ 警告

指示に従う	**交流100Vを使用する** 火災・感電の原因。
	電源電線の接続は確実に行う 不確実な接続は接続部が過熱して発火の原因。
	電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電の原因。
	電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。
	本体は絶縁材料の平らな壁面に据付ける。金属製の壁面、メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造物に据付けない 漏電、火災の原因。
	本体の背面と壁面の間に指が入らないように据付ける 感電の原因。
	漏電ブレーカーを確実に取付ける 故障や漏電の時に感電の原因。

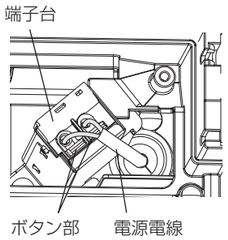
1. 結線をする
①電源電線の先端を右図に合わせて皮むきをする。



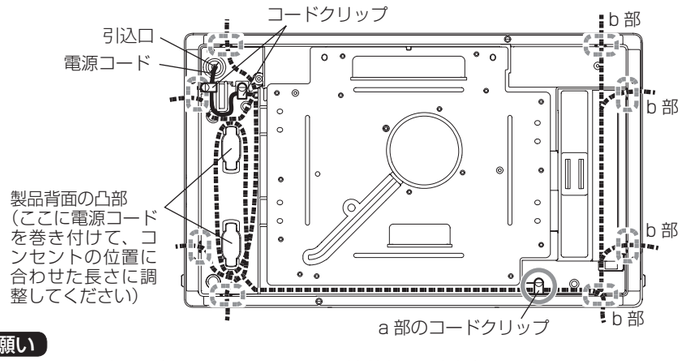
お願い
- 端子部へのほこりの侵入を防ぐため皮むき寸法は必ず守ってください。
- 電源電線は VVF φ 1.6 または φ 2.0 の 2 芯を使用してください。

②電源電線を電線の芯（導体）が見えなくなるまで確実に端子台に差し込む。

お願い
- 電源電線を軽く引いて端子台に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源電線を端子台からはずす場合は、ボタン部を押しながら電源電線を引き抜いてください。



【電源プラグ付きに変更する場合】
システム部材の電源コード（別売 P-01DC または、P-250DC）をご使用ください。
(1) コンセントの位置に合わせ、上下左右 8 か所のいずれか 1 か所の薄肉部（⬚部）を切り取る。（切断部がエッジにならないように加工してください）
(2) 電源コードを本体背面の引込口から本体内部に引き込み、端子台に結線する。
(3) 本体背面のコードクリップとねじで電源コード（━ 部）を固定する。（2 か所）
(4) コンセントの位置に合わせてコードの長さを調整する。（- - 部）
- 製品背面の凸部にコードを巻きつけてコンセントの位置に合わせた長さに調整してください。
- b 部（4 か所）のいずれかから電源コードを引き出す場合は、電源コードに同梱のコードクリップとねじで a（○部）の 1 か所にも固定してください。（合計 3 か所）



お願い
- 電源コードを軽く引いて、電源コードの棒状端子が確実に固定されていることを確認してください。
- 電源コードは必ずコードクリップ 2 か所（b 部から電源コードを引き出す場合は 3 か所）で固定し、引っ張っても動かないように確実に固定してください。

2. 端子台カバーを閉じる
端子台カバーを閉じ、ねじ 1 本で固定する。

お願い
- 電源電線に無理な力がかからないように端子台カバーを閉じてください。

3. 取扱説明書（別冊）に記載の操作部に貼られた保護フィルムをはがす。
4. 脱臭フィルターを手前に引いて取りはずし、袋から取り出して取付ける。
5. パネルを閉じる。

5. 据付け後の確認

据付け後、下表に従ってもう一度点検してください。

チェック項目	不具合時の対策	チェック
2. 据付け前のお願いに従った据付けができていますか？	お願い事項に従った据付け状態にする	
十分な強度のある壁に据付けられていますか？	補強する	
本体が確実に据付けられていますか？	本体据付用ねじを締め直す	
電圧は 100V ですか？	100V に直す	

6. 試運転

■据付け後、試運転を行って正常に運転することを確認してください。
- ワイヤレスリモコンで、運転切／入、強／中／弱、自動の切換えが正しくできるか確認してください。（ワイヤレスリモコンの使いかたは取扱説明書をご覧ください）
- 異常な音や振動がないか確認してください。

■試運転後、ワイヤレスリモコンからワイヤレスリモコン用リチウム電池を取り出して袋に入れて元通りにしてください。
■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原　因	点検・処置
ワイヤレスリモコンで運転入にしても羽根が回転しない	分電盤のブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
	正しく結線されていない	結線を確認する （**4. 据付方法 3 電気工事**参照） 本体に AC100V が供給されていることを確認する
	ワイヤレスリモコン用のリチウム電池⊕⊖が逆になっていませんか	リチウム電池の向きを正しく入れる
	ワイヤレスリモコンの操作位置と本体との距離が遠すぎませんか	取扱説明書 **4. 据付前の準備** P.5 記載の受信範囲内で操作する
	パネルがわずかに開いている	パネルを閉じる
運転中に異常音や振動がする	本体・パネルが確実に据付けられていない	据付け直す
	パネルに異物が付着している	異物を取り除く

7. お客様への説明

■使用者立会いのもとで試運転と別冊の「取扱説明書」に従って、正しい使いかたをご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
■「ワイヤレスリモコン」、「ワイヤレスリモコンケース」、「ワイヤレスリモコン用リチウム電池」、「ワイヤレスリモコンケース据付用木ねじ」をお客様へお渡しください。
■この「据付説明書」は「取扱説明書」とともにお客様へお渡しください。
■お客様が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理人様へ説明してください。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号